

2020年度における特別入試（推薦入試）の実施について（予告）

大阪教育大学では、入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、次のとおり推薦入試を実施します。（※元号については、新元号が決定後、変更予定）

募集する課程・学科・専攻・コース

推薦入試を実施する課程・学科・専攻・コースは次のとおりです。なお、志願者数が募集人員を下回った場合又は選考の結果、合格者数が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の合格者で補充します。

◆大学入試センター試験を課さない推薦入試

キャンパス	課程・学科	専攻	コース	募集人員
柏原	学校教育 教員養成課程	中等教育専攻	技術教育コース	4人
			美術・書道教育コース【美術分野】	3人
	教育協働学科	芸術表現専攻	音楽表現コース	9人
		スポーツ科学専攻		20人

◆大学入試センター試験を課す推薦入試

キャンパス	課程・学科	専攻	コース	募集人員
天王寺 (注)	初等教育 教員養成課程	幼児教育専攻		3人
		小学校教育専攻	昼間コース	10人
			夜間5年コース	5人
柏原	学校教育 教員養成課程	特別支援教育専攻		7人
		小中教育専攻	学校教育コース	7人
			国語教育コース	7人
			英語教育コース	4人
			社会科教育コース	7人
			理科教育コース	5人
			家政教育コース	3人
			音楽教育コース	3人
		中等教育専攻	国語教育コース	3人
			英語教育コース	4人
	社会科教育コース		4人	
	理科教育コース		3人	
	家政教育コース		3人	
	保健体育コース		5人	
	音楽教育コース		3人	
	教育協働学科	グローバル 教育専攻	英語コミュニケーションコース	7人
			多文化リテラシーコース	15人

(注) 初等教育教員養成課程の幼児教育専攻及び小学校教育専攻昼間コースは、1～2年次を柏原キャンパスで修学予定です。

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 技術教育コース												
募集人員	4人												
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 次の①②のいずれかの項目に該当する者</p> <p>① 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者で、工業に関する学科を履修見込み、若しくは総合学科において工業に関する教科・科目を25単位以上履修見込みの者（ただし、普通教科・科目の履修により専門教科・科目の履修と同様の成果が期待できる場合においては、その普通教科・科目の単位を5単位まで単位数の中に含めることができる。）</p> <p>② 高等専門学校第3学年を2020年3月に修了見込みの者</p> <p>(2) (1) ①の者であって、調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.2以上の者</p> <p>(1) ②の者であって、必須科目に未履修単位がなく、高等専門学校で修得した単位数を次の式にあてはめた値（小数点第2位を四捨五入）が2.4以上の者</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> $\{(秀の単位数 \times 4) + (優の単位数 \times 3) + (良の単位数 \times 2) + (可の単位数 \times 1)\} \div (総履修単位数)$ </div> <p>ただし、成績評価は100点満点をもってするものとし、それぞれの評語は次の評点区分とする。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>秀</th> <th>優</th> <th>良</th> <th>可</th> <th>不可</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評点</td> <td>100～90点</td> <td>89～80点</td> <td>79～70点</td> <td>69～60点</td> <td>59～0点</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 将来、中学校・高等学校において技術教育に携わる教員を強く志望する者</p> <p>(4) 技術に関する高い興味と適性を備え、技術教育にかかわる学習意欲が旺盛であると認められる者</p>	評語	秀	優	良	可	不可	評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
評語	秀	優	良	可	不可								
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点								
選抜方法	<p>大学入試センター試験を免除し、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）、小論文及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>												

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 美術・書道教育コース【美術分野】
募集人員	3人
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 次のA、Bのいずれかに該当する者 A 美術（デザイン・工芸を含む。）の専門学科に在籍する者で、調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.5以上の者 B 上記以外の学科に在籍する者で、調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.5以上であり、かつ芸術（音楽、書道を除く。）の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 美術教育への深い関心と高い実技能力を持ち、将来、中学校・高等学校の美術の教員を強く志望する者</p>
選抜方法	<p>大学入試センター試験を免除し、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）、小論文、実技検査及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>
その他	<p><u>書道分野については、特別入試（推薦入試）の募集は行いません。</u> 合格者には、入学前の学習支援として、個別の入学準備課題等を課します。詳細については、合格発表後にお知らせします。</p>

課程・専攻等	教育協働学科 芸術表現専攻 音楽表現コース
募集人員	9人
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 次のA、Bのいずれかに該当する者 A 高等学校の音楽科（それに準ずるコース等）に在籍する者で、実技（作曲・声楽・器楽）が特に優秀と認められる者（ただし、音楽関係科目等を13単位以上履修見込みの者に限る。） B 高等学校在籍中に作曲、声楽（独唱・重唱・合唱）、器楽（独奏・重奏・管弦楽・吹奏楽）の分野で、全国レベル又はそれに準ずるコンクールに入賞・入選した者又は主催者の推薦を受けて出演した者</p> <p>ただし、器楽についてはA、Bとも次の楽器に限る。 ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン、バス・トロンボーン、チューバ、パーカッション</p> <p>(3) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.5以上の者</p>
選抜方法	<p>大学入試センター試験を免除し、出願書類（学校長が作成した調査書、推薦書及び演奏能力・創作力に関する証明書、志望理由書）、小論文、実技検査及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>
その他	<p>出願資格に関わるコンクール名については、2019年7月下旬発行予定の推薦入試学生募集要項にてご確認ください。</p>

課程・専攻等	教育協働学科 スポーツ科学専攻
募集人員	20人
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者 ただし、推薦人数は各種目につき1校2名以内とする。</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 高等学校在籍中に、次の運動種目のいずれかにおいて、団体又は個人種目において全国ベスト16以上の者又は団体種目において全国選抜若しくは全国優秀選手に選ばれた者(出願資格に関わる大会名等については、次頁参照)</p> <p style="text-align: center;">陸上競技、バスケットボール、サッカー、バレーボール、 体操競技、ダンス、柔道、剣道、水泳競技(競泳)</p> <p>(3) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.5以上の者</p> <p>(4) 当該スポーツ活動を継続しようとする意志が強固で、かつ、将来、競技スポーツ選手の指導者を希望する者</p>
選抜方法	<p>大学入試センター試験を免除し、出願書類(学校長が作成した調査書、推薦書及び競技成績に関する証明書、志望理由書及び英語能力測定試験の得点加算を利用する場合はその成績の証明書)、小論文、実技検査及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>
その他	<p>本学が定める英語能力測定試験の等級又はスコアを満たしている場合は、所定の点数を得点加算します。詳細については、2019年7月下旬発行予定の推薦入試学生募集要項にてご確認ください。</p>

※競技成績に関する証明書及び英語能力測定試験の等級又はスコアの確認については、高大接続ポータルサイト「Japan e-Portfolio」を通じて提出することも可能です。

課程・専攻等	初等教育教員養成課程 幼児教育専攻	
募集人員	3人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者</p> <p>(3) 将来、幼稚園での学校教育に携わる教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } 又は2※
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 ②物理、化学、生物、地学から1 ③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに 物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 ④物理、化学、生物、地学から2 } ①～④から1※
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
<p>※地歴・公民及び理科の組合せは下記のいずれかとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民から2科目選択した場合は理科①又は②を選択してください。 ・地歴・公民から1科目選択した場合は理科③又は④を選択してください。 *「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。） ・指定した教科・科目数を超過して受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。 ・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。 		
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）、実技検査及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	
その他	<p>実技検査については、歌唱とピアノを行う予定です。</p> <p>詳細については、2019年7月下旬発行予定の推薦入試学生募集要項にてご確認ください。</p>	

課程・専攻等	初等教育教員養成課程 小学校教育専攻 昼間コース	
募集人員	10人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者</p> <p>(3) 将来、小学校での学校教育に携わる教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } 又は2※
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 ②物理、化学、生物、地学から1 ③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに 物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 ④物理、化学、生物、地学から2 } ①～④から1※
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
<p>※地歴・公民及び理科の組合せは下記のいずれかとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民から2科目選択した場合は理科①又は②を選択してください。 ・地歴・公民から1科目選択した場合は理科③又は④を選択してください。 <p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>		
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	初等教育教員養成課程 小学校教育専攻 夜間5年コース	
募集人員	5人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者</p> <p>(3) 将来、小学校での学校教育に携わる教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } 又は2※
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 ②物理、化学、生物、地学から1 ③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに 物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 ④物理、化学、生物、地学から2 } ①～④から1※
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
<p>※地歴・公民及び理科の組合せは下記のいずれかとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民から2科目選択した場合は理科①又は②を選択してください。 ・地歴・公民から1科目選択した場合は理科③又は④を選択してください。 <p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>		
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻	
募集人員	7人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 特別支援教育に深い関心を持ち、将来、特別支援学校や小学校において、特別支援教育に携わる教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から2 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、理科（物理、化学、生物、地学）から2科目受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 小中教育専攻 学校教育コース	
募集人員	7人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 教育学、心理学、道徳教育学に深い関心を持ち、将来、学校教育の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から2 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、理科（物理、化学、生物、地学）から2科目受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 小中教育専攻 国語教育コース	
募集人員	7人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者で、国語の評定平均値が4.3以上の者</p> <p>(3) 国語科分野に深い関心を持ち、将来、小学校教員や中学校の国語科分野の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から2 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、理科（物理、化学、生物、地学）から2科目受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 小中教育専攻 英語教育コース		
募集人員	4人		
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者で、英語に関する科目の評定平均値が4.2以上の者</p> <p>(3) 英語教育に深い関心を持ち、将来、小学校教員や中学校の英語の教員を強く志望する者</p>		
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語	
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1	
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」	から1 又は2
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 ②物理、化学、生物、地学から1 ③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 ④物理、化学、生物、地学から2	①～④ から1※
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1	
<p>※地歴・公民及び理科の組合せは下記のいずれかとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民から2科目選択した場合は理科①又は②を選択してください。 ・地歴・公民から1科目選択した場合は理科③又は④を選択してください。 <p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超過して受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>			
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書及び英語能力測定試験の成績並びに英語での活動における受賞歴等により得点加算を利用する場合はその証明書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>		
その他	<p>小中教育専攻英語教育コースでは、実用英語技能検定、TOEFL iBTなどの英語能力測定試験で本学が指定する等級又はスコアを取得している場合、若しくは英語での活動における受賞歴等がある場合は、大学入試センター試験の得点の合計点が満点に達するまで所定の点数を加算することができます。詳細については、2019年7月下旬発行予定の推薦入試学生募集要項にてご確認ください。</p>		

※英語能力測定試験の等級又はスコアの確認及び英語活動の受賞歴等の証明については、高大接続ポータルサイト「Japan e-Portfolio」を通じて提出することも可能です。

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 小中教育専攻 社会科教育コース	
募集人員	7人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 社会科分野に深い関心を持ち、将来、小学校教員や中学校の社会科分野の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から2 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、理科（物理、化学、生物、地学）から2科目受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 小中教育専攻 理科教育コース	
募集人員	5人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者</p> <p>(3) 理科に深い関心を持ち、将来、小学校教員や中学校の理科分野の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } から1
	理科	③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに 物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 } ③又は④ ④物理、化学、生物、地学から2 } ※
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 小中教育専攻 家政教育コース	
募集人員	3人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 家庭科に深い関心を持ち、将来、小学校教員や中学校の家庭科の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } 又は2※
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 ②物理、化学、生物、地学から1 ③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに 物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 ④物理、化学、生物、地学から2 } ①～④から1※
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
<p>※地歴・公民及び理科の組合せは下記のいずれかとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民から2科目選択した場合は理科①又は②を選択してください。 ・地歴・公民から1科目選択した場合は理科③又は④を選択してください。 <p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>		
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 小中教育専攻 音楽教育コース	
募集人員	3人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.6以上の者で、音楽の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 音楽教育に深い関心を持ち、将来、小学校教員や中学校の音楽の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A } から1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴、公民から2科目を受験した場合、又は理科（「物理」、「化学」、「生物」、「地学」）から2科目を受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科5～6科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び実技検査を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 国語教育コース	
募集人員	3人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者で、国語の評定平均値が4.3以上の者</p> <p>(3) 国語科分野に深い関心を持ち、将来、中学校・高等学校の国語科分野の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から2 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、理科（物理、化学、生物、地学）から2科目受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 英語教育コース	
募集人員	4人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者で、英語に関する科目の評定平均値が4.2以上の者</p> <p>(3) 英語教育に深い関心を持ち、将来、中学校・高等学校の英語の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } 又は2※
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ②物理、化学、生物、地学から1 } ①～④ ③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } から1※ 並びに物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 ④物理、化学、生物、地学から2 }
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
<p>※地歴・公民及び理科の組合せは下記のいずれかとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民から2科目選択した場合は理科①又は②を選択してください。 ・地歴・公民から1科目選択した場合は理科③又は④を選択してください。 <p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>		
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書及び英語能力測定試験並びに英語での活動における受賞歴等の得点加算を利用する場合はその証明書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	
その他	<p>中等教育専攻英語教育コースでは、実用英語技能検定、TOEFL iBTなどの英語能力測定試験で本学が指定する等級又はスコアを取得している場合、若しくは英語での活動における受賞歴等がある場合は、大学入試センター試験の得点の合計点が満点に達するまで所定の点数を加算することができます。詳細については、2019年7月下旬発行予定の推薦入試学生募集要項にてご確認ください。</p>	

※英語能力測定試験の等級又はスコアの確認及び英語活動の受賞歴等の証明については、高大接続ポータルサイト「Japan e-Portfolio」を通じて提出することも可能です。

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 社会科教育コース	
募集人員	4人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 社会科分野に深い関心を持ち、将来、中学校・高等学校の社会科分野の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から2 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、理科（物理、化学、生物、地学）から2科目受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 理科教育コース	
募集人員	3人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者</p> <p>(3) 理科に深い関心を持ち、将来、中学校・高等学校の理科分野の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } から1
	理科	③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに 物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 } ③又は④ ④物理、化学、生物、地学から2
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 家政教育コース	
募集人員	3人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 家庭科に深い関心を持ち、将来、中学校・高等学校の家庭科の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」 } 又は2※
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 ②物理、化学、生物、地学から1 ③物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 並びに 物理、化学、生物、地学から1 *同一名称不可 ④物理、化学、生物、地学から2 } ①～④から1※
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
<p>*地歴・公民及び理科の組合せは下記のいずれかとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民から2科目選択した場合は理科①又は②を選択してください。 ・地歴・公民から1科目選択した場合は理科③又は④を選択してください。 <p>*「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」の組合せをいいます。）</p> <p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>		
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 保健体育コース	
募集人員	5人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.5以上の者</p> <p>(3) 保健体育科教育への深い関心と高い体育実技能力を持ち、将来、中学校・高等学校の保健体育の教員を強く志望する者</p> <p>(4) 高等学校在籍中に、次の運動種目のいずれかにおいて、団体若しくは個人種目で全国大会へ出場した者又は個人種目で各地区高体連主催の大会においてベスト8以上の成績を収めた者</p> <p>陸上競技、バスケットボール、サッカー、ラグビーフットボール、バレーボール、ハンドボール、卓球、硬式テニス、ソフトテニス、硬式野球、バドミントン、体操競技、ダンス、柔道、剣道、水泳競技（競泳）</p> <p>各地区高体連主催大会名（個人種目のみ対象） 全道高校体育大会、東北高等学校選手権大会、関東高等学校体育大会、北信越高等学校体育大会、東海高等学校総合体育大会、近畿高等学校（種目名）大会、中国高等学校選手権大会、四国高等学校選手権大会、全九州高等学校体育大会</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A } から1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎
	<p>・指定した教科・科目数を超過して受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴、公民から2科目を受験した場合、又は理科（「物理」、「化学」、「生物」、「地学」）から2科目を受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科5～6科目）、出願書類（学校長が作成した調査書、推薦書及び競技成績に関する証明書、志望理由書）、実技検査及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

※競技成績に関する証明書の確認については、高大接続ポータルサイト「Japan e-Portfolio」を通じて提出することも可能です。

課程・専攻等	学校教育教員養成課程 中等教育専攻 音楽教育コース	
募集人員	3人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.6以上の者で、音楽の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 音楽教育に深い関心を持ち、将来、中学校・高等学校の音楽の教員を強く志望する者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から1 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A } から1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴、公民から2科目を受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科5～6科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び実技検査を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	

課程・専攻等	教育協働学科 グローバル教育専攻 英語コミュニケーションコース	
募集人員	7人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が3.8以上の者で、英語に関する科目の評定平均値が4.2以上の者</p> <p>(3) 将来、高度な英語のスキルと広い視野を身につけ、グローバル化する社会において、地域や学校での教育・学習を支援することを望む者、又は英語を活かした職業について世界にはばたくことを望む者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B } から2 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 } ①又は② ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1
	<p>・指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、理科（物理、化学、生物、地学）から2科目受験した場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p> <p>・「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答することができる者は、高等学校等においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込）者に限ります。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（5教科7～8科目又は6教科7～8科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書及び英語能力測定試験の得点加算を利用する場合はその成績の証明書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	
その他	<p>グローバル教育専攻英語コミュニケーションコースでは、実用英語技能検定、TOEFL iBT などの英語能力測定試験で本学が指定する等級又はスコアを取得している場合は、大学入試センター試験と個別学力検査「面接」の得点の合計点が満点に達するまで所定の点数を加算することができます。</p> <p>詳細については、2019年7月下旬発行予定の推薦入試学生募集要項にてご確認ください。</p>	

※英語能力測定試験の等級又はスコアの確認については、高大接続ポータルサイト「Japan e-Portfolio」を通じて提出することも可能です。

課程・専攻等	教育協働学科 グローバル教育専攻 多文化リテラシーコース	
募集人員	15人	
出願資格	<p>次のすべてに該当し、学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者、かつ、合格した場合に入学を確約できる者</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）を2020年3月卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき2019年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者、若しくは文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年度中に修了又は修了見込みの者</p> <p>(2) 調査書の学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 日本・アジアやヨーロッパの文化に深い関心を持ち、将来、国際社会やグローバル化する地域社会、学校などで種々の教育活動に取り組むことを望む者</p>	
大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	国語	国語
	外国語	英語（リスニング含む）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1
	地歴公民	世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B 現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」
	理科	①物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 ②物理、化学、生物、地学から1
	数学	数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A 数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎
	<p>指定した教科・科目数を超えて受験した場合は、原則として最高得点となる組合せの教科・科目の成績を用います。ただし、地歴・公民から2科目を受験したうち1科目を用いる場合、又は理科（物理、化学、生物、地学）から2科目を受験したうち1科目を用いる場合は、解答順に、前半60分で受験した科目を第1解答科目、後半60分で受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の成績を用います。</p>	
選抜方法	<p>大学入試センター試験（3教科3～4科目）、出願書類（学校長が作成した調査書及び推薦書、志望理由書）及び面接を総合して行います。ただし、総合得点が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とする場合があります。</p>	